

2学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2学年通信 105号 通算 169号

2017. 2. 24 (金) 発行

理数科「台湾紀行」エントリーNo.4 K. S さん

まず始めに出発時のお見送りありがとうございました。僕は最初キャリ研での理数科の見送り×4クラス、つまり120人くらいきてくれると思っていましたがそのはるかに上回る人が来てくれて普通科の底力を感じました。台湾の魅力について書こうと思ったのですが、魅力を書くと学年通信7枚分くらいになりそうなので排反事象みたいな感じで台湾の悪いところを書きたいと思います。今から書くこと以外は完璧と思ってください。



まず、トイレトペーパーが流せないです。あ、お食事中とかだったらすみません。たとえ大だろうが小だろうが拭いたトイレ

トペーパーは横のゴミ箱に捨てなきゃいけないらしいです。僕はまだ見たことがないのですが、想像すると〇〇〇〇〇〇〇〇が〇〇〇〇〇〇〇〇みたいな感じです。すいません汚かったのでモザイクかけました。次に、外が暖かい割に室内が寒いことが多いです。クーラーをガンガンにかける人が多くて寒かったです。こんなとこですかね。あ、空気が臭そうって人が多いですが、理数科の教室より少し臭いくらいなので大丈夫です。〇〇先生から美人の女の人の写真を載せると言われましたが全員美人だったので集合写真を載せます。でも美人と一緒にとった大賞はほしいです。

エントリーNo.5 A. Y さん

台湾は日本から地図で見るとすぐそのように感じますが、行きは飛行機で4時間かかりました。



帰りは窓側の席で景色がきれいでした。台湾と日本は気候も文化もとても違うと感じました。例えば、冬なのに気温が25度近くあること、もう桜が咲いていたこと、車が右側通行、野良犬がいること、リスがいること、etc.です。食文化も全く違いました。どの料理にも日本とは違う辛味がありました。台湾の飲み物と言えばタピオカと思う人もいます。おいしかったのですが、それ以上にタピオカ事件が印象的でした。(詳しくはU. Yさんの文章で)

2日目に附中に行きました。始めに英語で研究の発表をしました。附中の人は原稿を全く見ずに発表していて自分の英語とレベルの差を感じました。学校見学の時は、ペアの子が色々話してくれましたが、自分からあまり話せなかったのが、日本に来たときはたくさん話をしたいです。台湾の人が日本に来る前までに英語がすらすら話せるように頑張りたいです!!

充実した研修になりました。また台湾に行きたいと思います!!



エントリーNo.6 K. R さん

場所：3日目の夕食会場にて

撮影者：S. Rさん

近くで食事されていたので声をかけました (´▽`)



冬・物語 XIII

理数科諸君が台湾から無事帰国しました。現地で怪我や病気にならず、ふざけ過ぎて検挙される？ことも無かったことを嬉しく思います。紀行文を読ませてもらいました。疲れていたところでしょうけれど、即行送ってくれてありがとう。読むと何だか「台湾の情景が思い浮かぶ」ようです。それは、きっと書き手が「想いも乗せて」書いてくれているからであり、普通科諸君や我々に伝えたい！という「気持ちの現れ」なのだと思うのです。私は紀行文を読まなければ台湾に興味を持つことは無かったかもしれません。でも今は、機会があったら訪れてみたい国の1つとなりました。私はいつも「本」から多大に影響を受けてきましたが、思い返すと愛読してきたのは「そのような本」が多かったような気がします。そのようなじゃ分かりませんよね。では、学年末考査前で好きな本を読めない諸君のため、「そのような本」を紹介しようかと思う。

大内三郎さんの「地球ドライブ27万キロ」を読んだのはいつの頃だったのか(忘れてしまった...)けれど、たぶん書庫を探すと(しつこいようだが書庫ってカッコイイ)あるはず。大内さんは1969年から1978年代にかけ「VWバン」で世界中をドライブした。その距離は、当時世界記録でありギネスブックにも載ったということです。大内さんは今でも世界を旅しているそうです。ちょっと記憶が蘇ってキター！この本は大学生のときに擦り切れるまで読んだ本。その後、友人たちと車で旅行するきっかけにもなった本。現在、同様の紀行文は多数あるけれど、大内さんはその先駆けだったと思う。旅行記ではあるけれど、大内さんの「哲学」がぎっしり詰まっている本。2年生諸君には、大学生になった来年の夏休みに自転車やヒッチハイクでもイイので世界を旅して欲しい。大内さんの時代に比べて世界へのハードルはずっと低くなりましたから。明日は世界へ！やね。



植野稔さんの「岩魚幻照～大イワナの棲む溪々～」など溪流遡行記は大好きです。溪流釣りは社会人になってからハマったのだけれど、最盛期は年間30日以上釣行してました(酒田の頃の話)。溪流は4月～9月と釣期が決まっているので、それ以外の半年間、私は仕掛けを作ったり本を読んで過ごすので本は必須なのです。ですから、シーズンオフには神田で釣りの本を買うのです。しかし溪流というタイトルがあれば読まずに買い漁っていたので、もう買いたい本はなくなってしまいました。こうなると、これからの楽しみは古書しかありません。本好きの終着駅は古書と確信していましたが、ついに突入する時期が来てしまいました。でも実は、もう1つの方法があるのです。それは「自分で書く」ということです。読みたい本が無くということ、他にも同じ思いの人がいるはず。そんな人のためにも書く。実は書きたいのは山形県の溪流について。本当は「数日かけて遡行し源流の魚止で尺イワナを釣る！」ような紀行が理想なのだけれど(それは定年退職後の楽しみに取っておいて?)「里川でヤマメ・イワナをルアーフィッシング」だったら行けるかなと。今年は3坦&IHと忙しいので、だからこそ釣行する!



冬・物語 XIV

しかしですね。正直いうと「理数科の台湾紀行」のため空けていた紙面なのです。長編のUYさんから写真だけのKR君まで6人ドッ！と来たので覚悟して待っていたのですけれど…。後が続かないのです。日曜日に投稿してくれたKS君やAYさんの紀行が、自慢気なKR君のツーショット写真が、このままでは日の目を見ないかもしれません。そのような危機感から書いているのです。まあ理数科諸君は、日曜日は英語検定2次試験があり、月曜日からも課題研究発表に向けて夜遅くまで実験&原稿作成していることは知っているけれど、それにしても「ちょっとした紀行文と写真」位はとっとと送って欲しいものです。そのようなことができる「段取りや時間の有効活用」をもっと意識し実践すべきなのです（先日も授業で散々怒ったのだけれど）。理数科諸君の持つ表現力や発表力、サイエンスへの興味・関心や行動力は大変優れていると思うのです。しかし、それを世に尽くそうとする使命感・責任感は少ないのではないかと思います。おそらく、台湾の高校生の学びがハイレベルなのは「その両感に溢れているから」ではないでしょうか。台湾の男性が女性に優しいのは「その両感に溢れている故」ではないでしょうか。実はそのことは、理数科諸君に限らず理系生や文系生にも「求める感」であり、俯瞰すれば（実は自分が一番必要なのだけれど？）今の日本人に「喫緊に必要な感」だとも思ったりするのです。理数科諸君。何とか余って憎さ100倍と言います。まずは、学年末考査が終わってからでイイので怒って送って下さい。ずっと待ってるZ。

冬・物語 XV

「先生、学年通信に載せるのでしょうか？」とR子に言われたので、「絶対書くものか！」と堅く心に誓って岩手を去ったにも関わらず、R子の予言通りの展開になってしまった。これも全て理数科が悪い（しつこい？）。実は先週末、岩手大学教育学部書道コース生の「書道展」に行ったのです。それは私が書道マニアだからでは無く、2年前に担任したクラスの2人の生徒の作品を観るためであり、かつ2人を観るため（？）でもありました。2人は理系生でしたが岩手大学の書道コースに進学しました。彼女らには高校卒業作品として、Hみに「大器晩成」を、R子には「夢」を書いてもらいました。2学年の談話コーナー飾ってあるのがそれです（ちなみに「実」は、その1コ下のNに書いてもらいました）。いずれも素晴らしい書だと思えます。今さらですがお礼を言いますね。ありがとうございます。ちなみに、皆さんは「岩手県」と聞いて何を思い浮かべますか。ちょっと考えてみて下さい…。私のベスト5は「鈴木晃彦先生、東日本大震災、安比・雫石スキー場、宮沢賢治、けんじワールド」です。1番は何と言っても一昨年、生徒諸君および保護者の方にご講演&激励頂いた鈴木晃彦先生です。震災時の「大船渡と大船渡高校」のお話や映像は今も忘れられません。思い出したら止まらなくなり通信のバックナンバーを読んでいました。愛ある人と出会った奇跡に感謝です。さて安比です。安比は、バブル当時「日本一人気のあるスキー場」だったような気がします。みんな車に「PPAP」じゃなく「APPI」というステッカー貼っていました。雫石はワールドカップが開催されたこともある本格的なスキー場で「4.5kmのダウンヒルコース」が魅力です。一気に下りると足ガクガクだったのを思い出します。「雨ニモマケズ…」の宮沢賢治は学年通信でも何度か紹介しました（実は最近「北の国から'95 秘密」を観たので「宮沢」の次には「りえ」と打ちたくなるのだけれど？）。また、けんじワールドは雫石にある巨大なプールで「何でけんじなんだ！」と突っ込みたくなる施設でした。東北のハワイ「スパリゾートハワイアンズ」に匹敵する規模と豪華さでしたが、数年前に閉鎖したようです。子供が小さい頃、家族皆で行った思い出の場所なので



ちょっと残念です。話題が逸れてしまいました。そう書道展です。今回は1～4年生までの作品が展示してありましたが「4年生の卒展」がメインです。私は書の素養が無いので、HみとR子に説明してもらい作品を見て回りました。毎日何十枚も書くそうです。また、深夜までかかることもよくあることそうです。額作りや装丁も自分たちでするそうですし、書く紙や筆は自前なのでお金もかかるそうです。アルバイトをしながら「書に尽くす」その姿は素敵だと思いました。実は岩手大学には農学部共同獣医に進学したKYという男がいます。ある意味、当時の学年では有名な存在でした。その彼も交え夕食を食べただけけれど本当に楽しい時間でした。2年生諸君とも数年後に「そのような時間」を過ごせることを楽しみにして私は頑張ろうと思います。そう、鈴木先生もそう言われていました。



自分のために頑張れない奴が どうして人のために頑張れるというのか！

今日の先生の講演は、ある意味で“あたりまえ”のこと、でも私が常に目を背けていたことを強く認識させてもらうとてもいい機会になりました。たとえば先生が面接練習中の生徒に「口でどんなに上手に自分の将来を語ったり人のためになる仕事をしたいと言っても、成績が追いついていない。つまり、自分のために頑張れない人が人のために何かをする職業になんて就けない」と言った話、自分のことを言われているようでした。その厳しい口調には、自分ってなんてふがないんだろう、なんで頑張れないんだろう、とショックをうけました。でもその後の先生の「時間に限りがあっても能力に限りは無い」という言葉に、私は「頑張ろう」と素直に思えました。正直、私は興譲館に入って周りに圧倒されていたように思います。意識の高いクラスメート達に、1回1回の授業を全力で教えて下さる先生方。頑張らなかつたわけではないけど、周りの人より自分がとてつもなく劣っているような気持ちになることも何度かありました。でもそれは、自分で自分に自信が持てるほど努力してこなかったからなのだなと、今なら思います。私には、努力する理由になる志があります。職業は決まっていますが、法律に関する勉強をする、という夢があります。しかし、今の追いついていない成績のままでは口先だけになってしまいます。私は、せっかく立てた自分の志を曲げたくありません。先生の講演を聞いて、自分の今すべきことは見つかりました。1年生の半分を過ぎた今、先生の講演を運よく最前線で聞いたこと、本当に良かったです。先生は一期一会だと思っているとおっしゃいましたが、先生の力強い言葉で今こんなに前向きな気持ちになれていること、素敵な出会いとなりました。



今日の講演はまさに僕のための講演のようでした。僕は興譲館に入ったばかりの頃は頑張ろうと思っただけで、絶対に大学に受かろうとか毎日3時間勉強しようとか、本当に思っただけでしていませんでした。けれど、今回の講演会のおかげで自分がどうすべきか分かりました。それは、熱意を持って勉強することです。今までの僕は、とりあえず今日の授業がわかればいいやという感じで消極的な勉強しかしてなくて、その結果、テストも中途半端で課題もためこんでいました。このまま2年生になるのは本当にだめだと思いました。そこで、今回の講演を機に、積極的な学びを本気で実現しようかと思っています。具体的には、たまっている課題に自分の身になるようにしっかり取り組む、授業を100%味わえるように生活習慣をもう一度見直すなどです。受験生は目の色が変わると言いますが、僕は「今」目の色を変えます。将来についても、早いうちに目標を見つけて大学受験への熱意にしたいと思っています。まずは2年生になった時に、1年生の時は頑張ったなと思えるようになります。 学年通信第38号「鈴木先生の講演会II」からお二人の1年次の感想を再掲しました。少しは成長した？かな。